

乙 頁

おと さだ

第69号 通巻13巻 第2号
 1993年7月1日 発行
 守山市立埋蔵文化財センター
 ☎0775-85-4397
 〒524-02
 守山市服部町2250番地

はじめに

梅雨空のもと、発掘現場ではトレンチにプールのように溜まった雨水の排水に追われています。排水できたと思うとまた2日ほど雨にたたられ、なかなか思うように作業が捗りません。さて今号では、5月6月中に実施された調査の結果および調査状況について報告したいとおもいます。

【発掘調査だより】

◆ 焔魔堂遺跡の調査

焔魔堂町字友において、店舗建築に先立ち発掘調査を実施しました。この遺跡は二町一播磨田線の道路改良工事に伴う調査で発見されたもので、古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡です。2つの調査区のうち第1区では、耕作土より40～70cmの深さにおいて土坑、柱穴等を検出しました。土坑の埋土には黒褐色と灰色土の2種がみられ、前者は古墳時代以前、後者は平安時代以降の土坑だと考えられます。第2区では遺構の密集度が高く、土坑・竪穴住居・掘立柱建物・溝などが検出されました。掘立柱建物は、1間×3間の古墳時代以前と考えられる

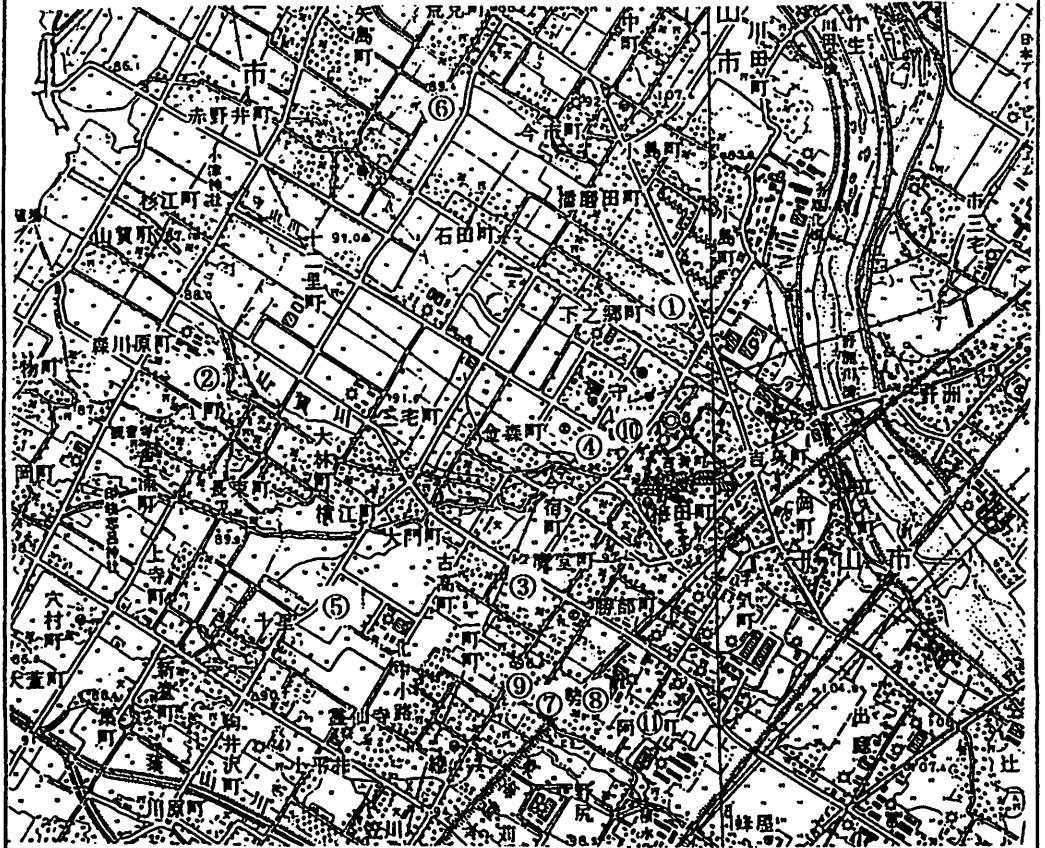
番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	調査面積
①	酒寺遺跡	播磨田町	店舗建設	前年度より継続	約 10,000㎡
②	欲賀城遺跡	欲賀町	ほ場整備	前年度より継続	約 10,060㎡
③	焔魔堂遺跡	焔魔堂町	共同住宅	5/13～6/4	900㎡
④	金森東遺跡10、11次	金森町	個人住宅	5/10～16	125㎡
⑤	下長遺跡	古高町	工場用地	5/18～	5,072㎡
⑥	布施野城遺跡	播磨田町	宅地造成	4/19～5/21	1,267㎡
⑦	伊勢遺跡 24次	伊勢町	共同住宅	4/23～6/10	2,280㎡
⑧	伊勢遺跡 25次	伊勢町	個人住宅	5/15～5/29	500㎡
⑨	伊勢遺跡 26次	伊勢町	共同住宅	6/7～12	1,308㎡
⑩	吉身西遺跡	守山町	個人住宅	5/27～28	398㎡
⑪	大洲遺跡	阿村町	道路改良	6/21～	2,880㎡

【平成5年5月～7月1日までの調査】

ものと、2間×2間の平安時代の建物の2棟が見つかっています。古墳時代初頭と見られる竪穴住居は2.8mと3.6mを測る長方形で、壁ぎわには周壁溝が巡っていました。土坑からはサヌカイトの剥片が10点ほど出土していて、縄文時代に遡る遺構のあることが予想されます。

◆ 欲賀城遺跡の調査

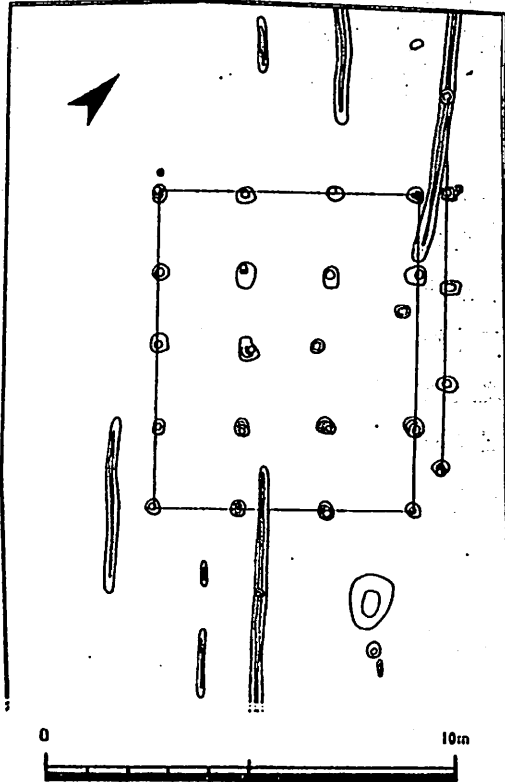
ほ場整備に先立ち調査を行っている欲賀城遺跡では、最近まで畑として利用されていた地域の調査を進めてきました。ここでは、一辺40mを測るコの字状の区画溝が検出されていて、その内側はまわりよりも50cmほど高くなっています。溝は幅3~4m、深さ0.3~1.5を測り、南西側では二重、北東側では三重に巡っています。区画溝の内側には、数多くの柱穴が検出されていて、数時期にわたって集落が営まれていたものと考えられます。溝や柱穴から出土した土器などみて、鎌倉時代~室町時代にかけて継続的に営まれた集落であると考えられます。



▲ [5~6月実施調査位置図]

◆ 伊勢遺跡 (24次) の調査

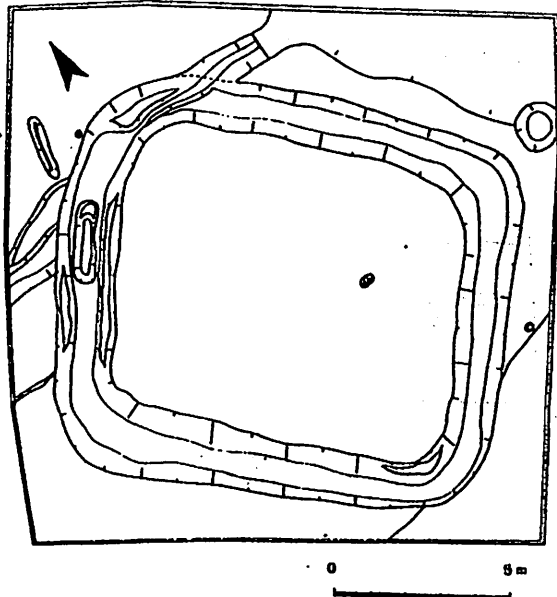
4月末より共同住宅建築に先立ち伊勢集落の西側の水田地において発掘調査を実施しました。遺構検出面は2面あり、上層では3間×4間の掘立柱建物と区画溝、耕作痕などが見つかりました。建物の時期は柱穴から出土した土器から見て、14~15世紀と考えられます。平成3年度の調査でも、同時期の掘立建物群が検出されていることから、中世の集落がこの地域に広がっているものと想像されます。下層では、柱穴や風倒木痕などが検出されましたが、遺物は見られず時期を特定するには至りませんでした。



▲ 伊勢遺跡24次調査平面図

◆ 伊勢遺跡 (第25次) の調査

伊勢町字大苗代の水田地において、個人住宅建築に先立ち発掘調査を実施しました。その結果、古墳時代前期の方形周溝墓1基、溝等を検出しました。方形周溝墓は11m×13mの規模で、周溝は深さ0.6~0.8mを測り、断面はU字状を呈しています。北西側の周溝の中央部には土坑があり、溝内においても死者を埋葬していた可能性があります。



▲ 伊勢遺跡25次調査全体図

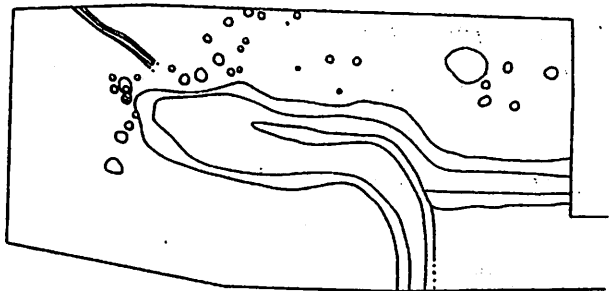
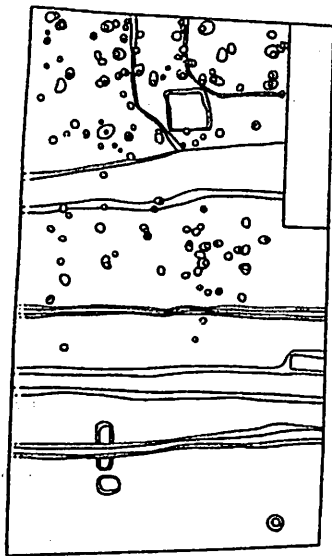
◆ 大洲遺跡の調査

6月21日より阿村町地先において、市道改良工事に伴う大洲遺跡の発掘調査を開始しました。昨年、道路側溝部分を調査した結果、上層では中世、下層では弥生時代後期の遺構が検出されていて、同遺跡は伊勢遺跡に連続する大集落となる可能性があります。昨年の夏、弥生時代の掘立柱建物としては最大級の遺構の見つかった調査地から約300mほど東にあたり、再び大きな発見があるかもしれません。次号の『乙貞』でその成果を報告します。

◆ 布施野城遺跡の調査

宅地造成工事に先立ち、4月19日から実施していた布施野城遺跡の調査は、5月21日に終了しました。布施野集落の南辺にあたる畑地を2分割して調査を進めたところ、下図のとおり多くの柱穴や溝、土坑を検出しました。遺構は現集落側にあたる第2調査区の北東側に多く、第1調査区では希薄でした。微高地上に位置する現在の集落に重複するかたちで遺跡が広がっているものと想像されます。柱穴の並び方からみて、溝に平行する方向に掘立柱建物が建てられていたものと

考えられます。また、柱穴や溝・土坑がお互い切り合うことや、出土土器からみて鎌倉時代後期から室町時代にかけて営まれていたと考えられます。『中世城郭』と考えられている布施野城遺跡について、今回初めての発掘調査によって中世の集落跡が発見されたことは、同遺跡の性格や城郭の発達を考える上で重要な資料となるでしょう。



▲ 布施野城遺跡調査平面図

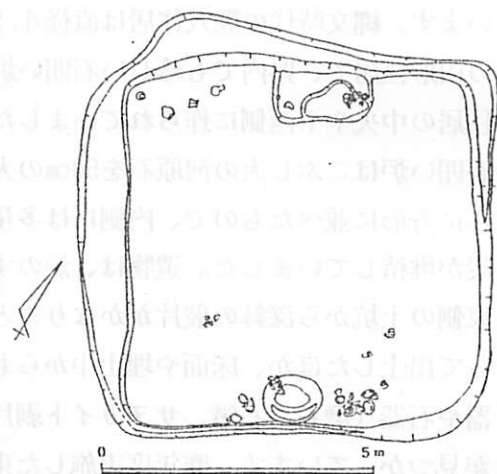
◆ 酒寺遺跡の調査

酒寺遺跡では、前回報告した調査区の北東側にあたる区域の調査を進めています。全体の約4/5の遺構を検出したところですが、現在までに弥生時代後期の竪穴住居が11棟、土坑、溝などが見つかっています。竪穴住居はすべて方形プランの住居で、一辺が5～7mを測ります。

す。どの住居も残りがよく、床面までの深さは50～70cmを測ります。床面からは甕や長頸壺・高坏などの弥生土器が出土しました。そのうち、1棟の住居からは赤い顔料が検出されたほか、L字状石柵が出土しました。この石柵にも赤い顔料が付着していて、成分分析をした結果水銀朱であることが分かりました。酒寺遺跡では50基以上の方形周溝墓が見つかっていて、大規模な墓域を形成していることがわかっています。服部遺跡では方形周溝墓の木棺に朱が付着していた例があることから、死者を葬る時にも朱が使われていたとみられます。墓域のなかに営まれた酒寺遺跡の集落は、そのような祭りにかかわるムラであった可能性もあります。



▲ L字状石柵

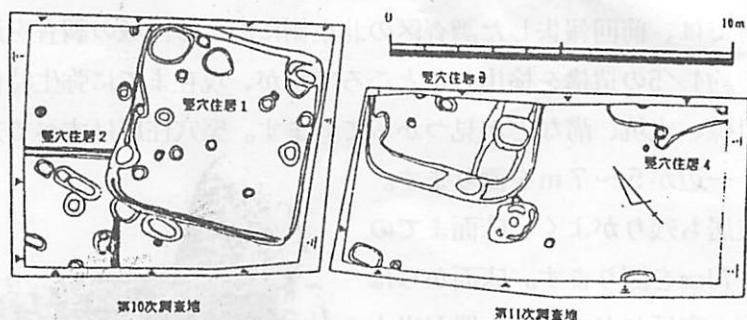


▲ 竪穴住居平面図 (SH-6)

◆ 金森東遺跡第10、11次調査

5月10日から16日にかけて守山高校の南東70mの地点で個人住宅建築に伴う2件の調査を実施しました。その結果、古墳時代前期の竪穴住居4棟と土坑を検出しました。SH-6は一辺約6mを測る方形の住居で、中央に炉、壁際には排水用の溝が掘られていました。竪穴住居からは多量の土師器が出土したほか、砥石も見つかっています。この周辺では竪穴住居が60棟も検出されていて、弥生時代

後期から古墳時代後期にかけて継続して集落が営まれていたと考えられます。



▲ 金森東遺跡第10、11次調査遺構平面図

◆ 下長遺跡の調査 (13次調査)

5月から大門町字盆瀬坊において、工場用地造成工事に先立ち調査を実施しています。現在までに縄文時代中期の竪穴住居1棟、古墳時代の溝などを検出しています。縄文時代の竪穴住居は直径4.5mの円形住居で、県内でも珍しい石囲い炉が住居の中央やや西側に作られていました。石囲い炉はこぶし大の河原石を50cmの大きさに方形に並べたもので、内側には多量の炭が堆積していました。遺物は、炉のすぐ東側の土坑から深鉢の破片がかなりまとまって出土したほか、床面や埋土中からも土器や石器（磨石、石鏃、サヌカイト剥片）が見つかっています。昨年度実施した東側の近接地の調査でも、ほぼ同時代の縄文土器が見つかることから、周辺に縄文時代中期の集落があったと考えられます。



▲ 縄文時代中期の竪穴住居



▲ 石囲い炉

§ § § § § § § § 埋文センターからのお知らせ § § § § § § § § § § § §

埋蔵文化財センター友の会では、毎回多彩な例会を企画し運営しています。7月20日の例会では『古代の染色』と題して、染色の実習を行います。

友の会では会 員を募集していますので、センターまでご連絡ください。

後記 貴重な発見が相次いでいます。気軽に各現場にお立ち寄りください。(BK)